

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	長原小学校
学校長名	長井 博和

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・小学校では、第6学年 30名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

・国語は平均正答率51％で、大阪市平均より11％低い、平均無答率は1.7％と大阪市平均より1.7％高い。平均無答率の高さは基礎基本の定着に向けて、粘り強く取り組むことができてきたことの成果の表れと考える。語彙に関する問題に対する回答率が低く、漢字学習についての課題を残した。引き続き、要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりする力をつける必要がある。

・算数は平均正答率59.0％で大阪市平均より10％低い。また、平均無解答率は3.4％で大阪市平均より1％低い。全ての領域で大阪市平均を下回っており、特に図形の領域においては16％下回っていた。今後も基礎基本の定着に粘り強く取り組むことが必要と考える。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕言語力や論理的思考を目指し、自分の考えを持ち、意見を述べる、書く、まとめる活動を継続して行った。また、習熟度別少人数学習やティームティーチングでの学習形態を維持し、漢字検定も行い、語彙の学習に力を入れている。昨年度と今年度、コロナ禍によりペア学習、グループ討議があまりできなかったこと、平均正答率が大阪市平均を下回ったことを受け、学習体制を維持しながら質の向上を図っていく。無解答率が比較的 low であるこれまでの取り組みの成果が出ていると考える。基礎基本の定着に低学年からの見直しを行っていく。

〔算数〕図形の設問の正答率が特に低い。基礎基本の定着に課題がみられる。また、記述式問題についても正答率が低く、今後も引き続き習熟度少人数学習やティームティーチングを継続して行い、自分の考えを伝え合う言語活動を算数科においても取り組み、引き続き図形等の意味を解釈して説明する力、論理的に記述する力を身に付けさせていきたい。

質問紙調査より

「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に93.3％の児童が「あてはまる、ややあてはまる」と回答した。全国や大阪市平均を上回る結果だった。また、あまりあてはまらない、あてはまないと回答した児童はいなかった。それは、学校運営の計画で、学校生活を通して相手のことを考えて行動し、互いに認め合う機会をつくり、「人の役に立つ」ということについて児童の意識を高める、道徳心・社会性の育成に取り組んできた結果である。「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に肯定的な回答をする割合が78.7％と、全国平均大阪市平均を上回った。

今後の取組(アクションプラン)

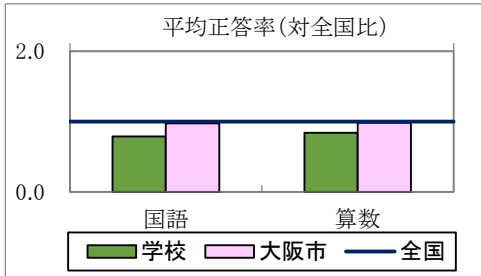
・学習指導については、コロナ禍が続く状況ではあるが、感染症対策を講じたうえでペア学習やグループ学習の話し合い活動を積極的に行っていく。また、オンライン学習での双方向通信の取り組みやデジタルドリル導入等、ICT機器を活用した思考力・判断力・表現力の育成により一層取り組んでいく。習熟度別少人数学習やティームティーチングにおいても継続して計画的に行っていく。個別の支援においても、特別支援学級担任やサポーターとともに連携を図りながら取り組んでいく。

・自尊感情の育成については、学級での取り組みと合わせて、縦割り活動やクラブ活動、委員会活動などを活用し、成功体験をより多くさせ、達成感を味わわせる機会を作る取り組みを引き続き実施していく。

【 全体の概要 】

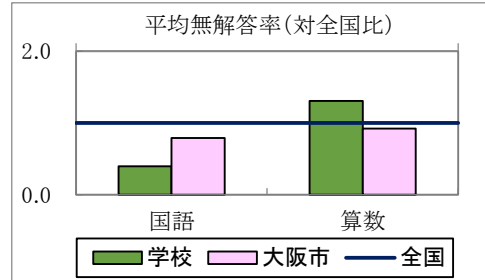
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	51.0	59.0
大阪市	63.0	69.0
全国	64.7	70.2



平均無解答率（％）

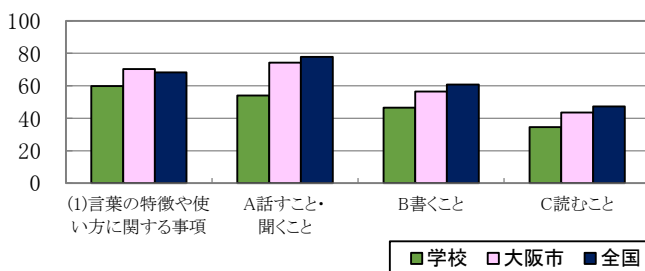
	国語	算数
学校	1.7	3.4
大阪市	3.4	2.4
全国	4.3	2.6



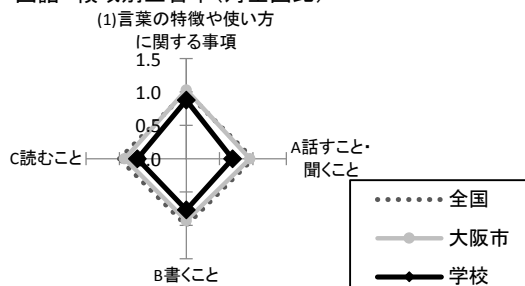
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	6	59.8	70.3	68.3
(2)情報の扱い方 に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
A 話すこと・聞くこと	3	54.0	74.3	77.8
B 書くこと	2	46.6	56.4	60.7
C 読むこと	3	34.5	43.5	47.2

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



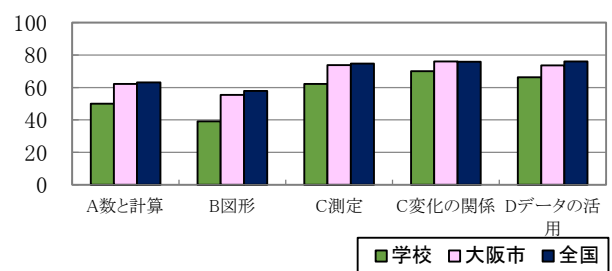
国語 領域別正答率(対全国比)



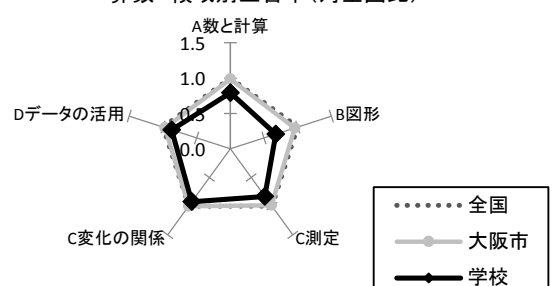
【 算 数 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	4	50.0	62.2	63.1
B 図形	3	39.1	55.4	57.9
C 測定	3	62.1	73.8	74.8
C 変化と関係	3	70.1	76.0	75.9
D データの活用	5	66.2	73.6	76.0

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

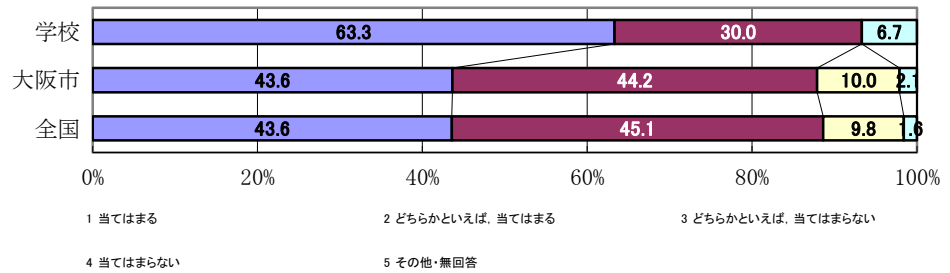
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

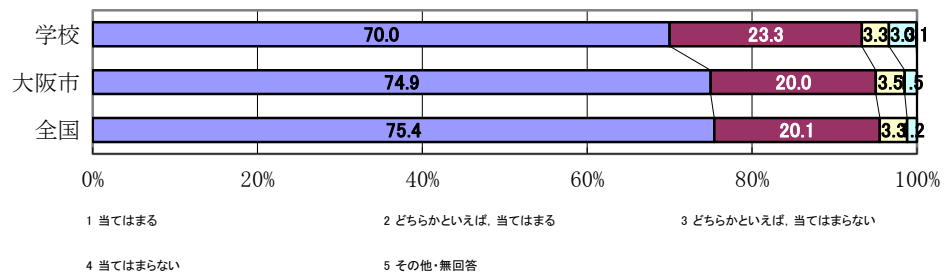
10

人が困っているときは、進んで助けていますか



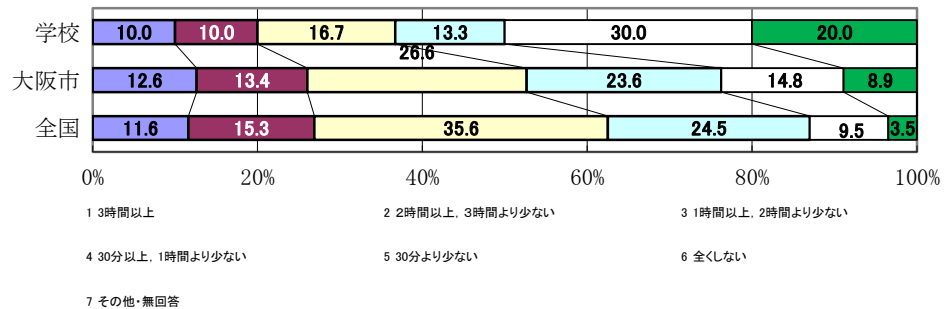
12

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



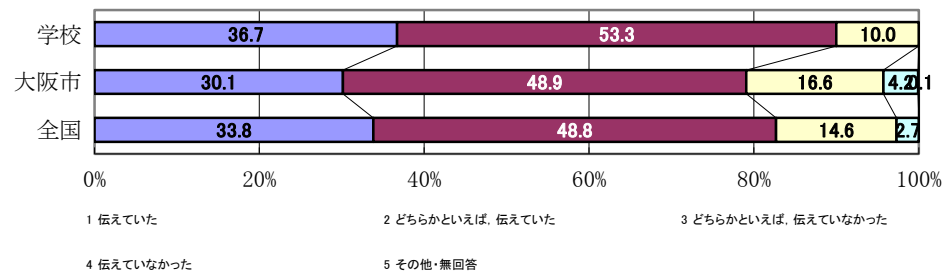
18

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）



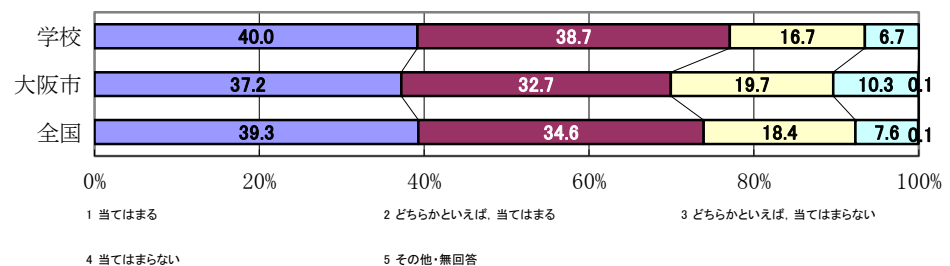
31

5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか



56

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



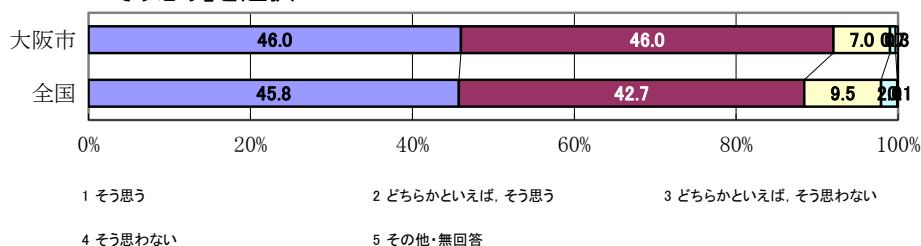
学校質問紙より

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

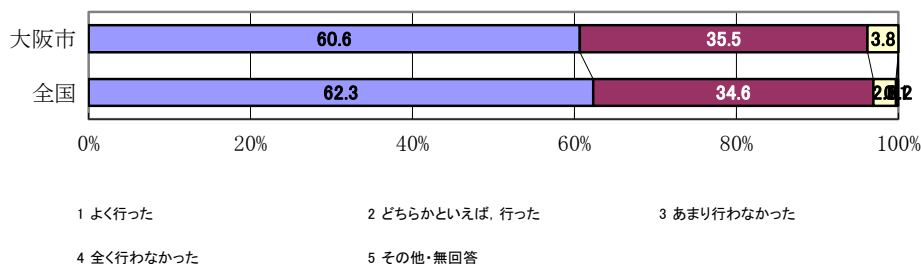
学校「そう思う」を選択



10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか

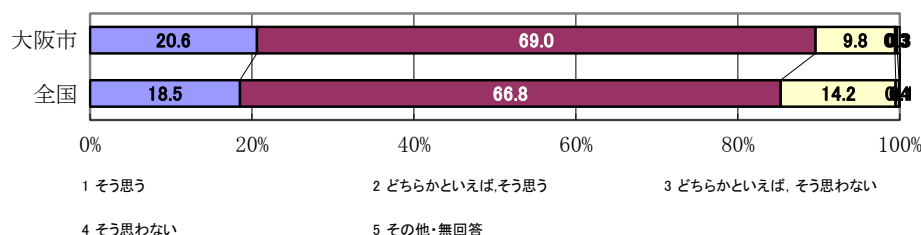
学校「よく行った」を選択



29

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか

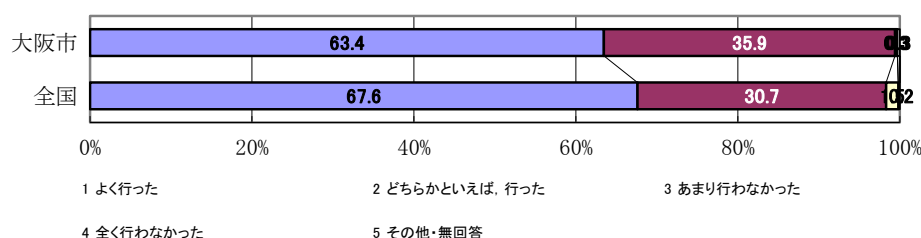
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



48

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

学校「よく行った」を選択



59

調査対象学年の児童に対する算数の指導として、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか

学校「よく行った」を選択

